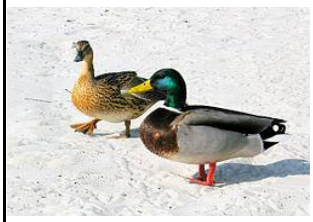
観察時期：2012年11月～2013年3月

		類	写真	特徴	生態
芝川周辺	カワラヒワ	スズメ目 アトリ科 ヒワ属		体長は約 14cm 、翼開長約24cmでスズメと同大だがやや小さい。全体的に黄褐色で、太い嘴と、翼（初列風切と次列風切）に混じる黄色が特徴的である。さえずりは「チョンチョンジューイン」等と聞こえる。	低山から低地にかけての森林に広く生息する。主に植物食で、植物の種子を食べることが多い。人為環境下ではヒマワリなどの種子を特に好み、大きな種子を太い嘴でついばむ様子が観察される。
	マヒワ	スズメ目 アトリ科 カワラヒワ属		全長12-12.5cm。尾羽は黒い。翼は黒く、羽縁は黄色。嘴は細く、色彩は薄いオレンジ色。	平地から山地にかけての針葉樹林、林縁などに生息する。繁殖期以外は群れで生活する。食性は植物食で、果実（ダケカンバ、ハンノキなど）、種子、芽などを食べる。
	カワウ	ペリカン目 ウ科		全長約82cm、翼開長約135cm。体重1.81-2.81kg。全身がほとんど黒色で大形のウ類であり、色、大きさともウミウに似るが、背や翼には褐色みがあり、くちばしの基部の黄色い口角部分には丸みがある。	主に河川部や湖沼などに生息し、近年は個体数が増加した影響からか海上でも見られる。本種の主なエサであるコイなどが、人の手による無計画な放流により上流域にも生息するようになったので、本種もまた山間部など上流域に進出している。
	ツグミ	スズメ目 ツグミ科 ツグミ属		全長24 cm。翼開長39 cm。色彩の個体変異が大きい。嘴の色彩は黒く、下嘴基部は黄色。後肢の色彩はピンクがかった褐色。	平地から山地にかけての森林、草原、農耕地などに生息する。越冬地ではまず山地の森林に群れて生息し、その後に平地へ移動し分散する。食性は雑食で、昆虫、果実などを食べる[7]。農耕地や河原などの開けた地表で採食を行う[6]。
	カイツブリ	カイツブリ目 カイツブリ科 カイツブリ属		全長は25-29cm。翼開長40-45cm。体重130-236g。尾羽は非常に短く、外観からはほぼ判別できない。夏季には夏羽として頭部から後頸が黒褐色で、頬から側頸が赤褐色の羽毛で覆われる。体上面は暗褐色。また嘴の色彩が黒く、斑が明瞭。冬季には全体として淡色な冬羽となり、頭部から体部にかけての上面は暗褐色で、下面は淡褐色。頬から側頸も黄褐色の羽毛で覆われる。	流れの緩やかな河川、湖沼、湿原などに生息し、まれに冬季や、渡りのときには海上で見られることもある。主に水上で生活して、ほとんど歩くことはない。食性は主に動物食で、魚類、昆虫、甲殻類、貝類などを食べる。巧みに潜水して獲物を捕食する。

ハシブトガラス	スズメ目 カラス科		全長56cm、翼開長100cm、体重550-750gほどで、全身が光沢のある黒色をしており、雌雄同色。ハシボソガラスに似るがやや大きく、嘴が太く上嘴が曲がっているところと、額（嘴の上）が出っ張っているところで判別できる。	元来は森林に住むカラスであり、現在も山間部など森林地帯に広く分布しているが、近年日本では都市部において急速に分布を拡げた。食性は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べる。特に脂質を好み、石鹸や和蝋燭を食べることもある。また、小鳥やネズミなどの生きた小動物を捕食することもある。
シジュウカラ	スズメ目 シジュウカラ科 シジュウカラ属		全長は約14.5cmで、スズメぐらいの大きさ。翼開長は約22 cm]。体重は11-20g。上面は青味がかった灰色や黒褐色、下面は淡褐色の羽毛で覆われる。頭頂は黒い羽毛で覆われ、頬および後頸には白い斑紋が入るが、喉から胸部にかけて黒い斑紋に分断され胸部の明色部とは繋がらない。喉から下尾筒（尾羽基部の下面）にかけて黒い縦線が入る。	市街地の公園や庭などを含む平地から山地の林、湿原などに生息する。通常は渡りを行わないが、寒冷地に分布する個体や食物が少ない時には渡りを行うこともある。和名は鳴き声（地鳴き）に由来する。さえずりは甲高いよく通る声で「ツィピーツィピーツィピー」などと繰り返す。食性は雑食で、果実、種子、昆虫やクモなどを食べる。地表でも樹上でも採食を行う。
ヤマガラ	スズメ目 シジュウカラ科 シジュウカラ属		全長13-15センチメートル。頭部は黒い羽毛で被われ、額から頬、後頸部にかけて明色斑が入る。下嘴基部（腮）から胸部にかけて黒い帯模様が入る。嘴の色彩は黒い。後肢の色彩は青みがかった灰色。	標高1,500メートル以下にある常緑広葉樹林や落葉広葉樹林に生息。和名は山に生息する事に由来するが、山地から平地にかけて生息する。食性は雑食で、昆虫、クモ、果実などを食べる。主に樹上で採食し夏季は主に動物質を、冬季は主に果実を食べる。堅い果実は後肢で挟み、嘴でこじ開けて中身を食べる。また樹皮などに果実を蓄える事（貯食）もある。
カワセミ	ブッポウソウ目 カワセミ科 カワセミ属		全長は17 cmほどで 、スズメよりも大きいが、長いくちばしのため体はスズメほどの大きさ。日本のカワセミ科のなかでは最小種となる。翼開長は約25 cm。体重19-40g。くちばしが長くて、頭が大きく、頸、尾、足は短い。オスのくちばしは黒いが、メスは下のくちばしが赤いのでオスと区別できる。また、若干メスよりオスの方が色鮮やかである	海岸や川、湖、池などの水辺に生息し、公園の池など都市部にもあらわれる。古くは町中でも普通に見られた鳥だったが、高度経済成長期には、生活排水や工場排水で多くの川が汚れたために、都心や町中では見られなくなった。近年、水質改善が進んだ川では、東京都心部でも再び見られるようになってきている。採餌するときは水辺の石や枝の上から水中に飛び込んで、魚類や水生昆虫をくちばしでとらえる。エビやカエルなども捕食する。
キジ	キジ目キジ科キジ属		全長オスが81 cmほど、メスが58 cmほど。翼開長は77 cmほど。オスは翼と尾羽を除く体色が全体的に美しい緑色をしており、頭部の羽毛は青緑色で、目の周りに赤い肉腫がある。背に褐色の斑がある濃い茶色の部分があり、翼と尾羽は茶褐色。メスは全体的に茶褐色で、ヤマドリのメスに似ているが、ヤマドリメスより白っぽい色をしており、尾羽は長い。	山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地に生息している。地上を歩き、主に草の種子、芽、葉などの植物性のものを食べるが、昆虫やクモなども食べる。
オオバン	ツル目 クイナ科 オオバン属		全長32-39cm。翼開張70-80 cm。]和名はバンよりも大型であることに由来する。頭部や頸部は黒い羽毛で被われ、頭頂や後頸には光沢がある。胴体は灰黒色の羽毛で被われ、上面は青みがかる。	湖沼、湿原、水田などに生息する。非繁殖期には大規模な群れを形成することもある。食性は植物食傾向の強い雑食で、主に水生植物を食べるが魚類、鳥類の卵や雛、昆虫、軟体動物なども食べる。

バン	ツル目 クイナ科		体長は35 cmほどで、ハトくらいの大きさ。翼開長は52 cmほど。成鳥のからだは黒い羽毛におおわれるが、背中の羽毛はいくらか緑色をおびる。額にはくちばしが延長したような「額板」があり、繁殖期には額板とくちばしの根もとが赤くなる。足と足指は黄色くて長い。	湖沼、川、水田、湿地などに生息するが、公園の池などにも生息することがある。長い足を高く上げながら水際や浮いた水草の上を歩き回る。泳ぐことも水にもぐることもできるが、足に水かきはなく、尾が高く上がった前のめりの姿勢でぎこちなく泳ぐ。食性は雑食性で、昆虫、甲殻類、植物の種などいろいろなものを食べる。
ジョウビタキ	スズメ目 ツグミ科 （ヒタキ科）		体長は13.5-15.5 cm、体重13-20 g。スズメよりわずかに小さい。オスは頭上が白く、目の周りが黒いのが特徴である。メスは頭が淡褐色でオスとは簡単に見分けられる。胸から腹、尾にかけてはオスメスとも橙色をしている。	平地からの低山の明るく開けた林の中に生息する。冬の日本では人里や都市部の公園などでもよく見られ、身近な冬鳥の一つである。昆虫類やクモ類などを捕食するが、冬にはピラカンサ[3]などの木の実もよく食べ、ヒサカキなど実をつけた木によく止まっている。
ダイサギ	コウノトリ目 サギ科		体長は 90cm ほどで、日本ではアオサギと並ぶ最大級のサギ。全身の羽毛が白色。白鷺の一種。雌雄同色。全体が白色で、脚と首が非常に長く、くちばしも長い。足は全体が黒い。夏羽ではくちばしが黒くなり、足の基部がわずかに黄色がかる。	水田や川、湖沼などで、魚、両生類、ザリガニ、昆虫などを捕食する。首をS字型に縮めて立っている姿がよく観察される。繁殖は、サギ科の種類同士で寄り集まって、集団繁殖地の「サギ山」を作る習性がある。
アオサギ	コウノトリ目 サギ科 アオサギ属		全長88-98cm。翼開張150-170cm。体重1.2-1.8kg。上面は青みがかった灰色の羽毛で被われ、和名の由来（漢字表記の蒼はくすんだ青色のことも指し、中国語名と同一）になっている。	河川、湖、池沼、湿原、干潟、水田などに生息する。非繁殖期には単独で生活するが、小さな群を作ることもある。食性は動物食で、魚類、両生類、小型哺乳類、甲殻類、昆虫などを食べる。水辺で待ち伏せたり、水辺や浅瀬を徘徊しながら獲物を探す。
コサギ	サギ類		全長60cm。チュウサギよりもさらに小さいので、この名で呼ばれる。全身の羽毛が白色で、いわゆる白鷺と呼ばれる鳥の一種。	水田や川辺、海岸などで首を縮めて立っている姿がよく見られる。魚類、カエル、ザリガニなどを捕食する。獲物を捕らえる時は足でつつくようなしぐさをして、物かげから獲物を追い出してから捕らえることもある。
スズメ	スズメ目スズメ科スズメ属		全長は約14-15cmで、体重は18-27g。ホオジロより小さく、シジュウカラぐらいの大きさ。日本では鳥の大きさ等を比較する場合の基準となる「ものさし鳥」と呼ばれる基本種となる（他に ムクドリ、キジバト、ハシブトガラスなど）。	食性は雑食性で、イネ科を中心とした植物の種子や虫を食べる。また、都市部に生息するスズメはサクラの花の蜜、パン屑・菓子屑や生ゴミまで、何でも食料にする。このような雑食性が、都市部での繁殖を可能にした理由の1つと考えられている。繁殖期には子育てのために虫を好んで捕獲する。夏から秋にかけては稲に対する食害も起こす。

ハクセキレイ	スズメ目 セキレイ科 セキレイ属		体長21 cm ほどで、ムクドリよりやや小さめで細身。他のタイリクハクセキレイ亜種より大型になる。頭から肩、背にかけてが黒色または灰色、腹部は白色だが胸部が黒くなるのが特徴的である。顔は白く、黒い過眼線が入る。セグロセキレイと類似するが、本種は眼下部が白いことで判別できる。	主に水辺に棲むが、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでもよく観察される。河川の下流域など比較的低地を好む傾向があり、セグロセキレイやキセキレイとは、夏場は概ね棲み分けている。食性は雑食で、一旦高いところに留まって採食に適した場所を探し、水辺や畑などに降りて歩きながら水中や岩陰、土中などに潜む昆虫類やクモ、ミミズなどを主に捕えて食べる。
コガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		体長34-38cm。翼開長58-64cm。雄の方がやや大きい。ハトより一回り大きい程度で、日本産カモ類の中では最小種のひとつ。雄は頭が栗色で、目の周りから後頸にかけてが暗緑色、身体は灰色で側面に横方向の白線が入る。嘴と足は黒い。	非繁殖期には、湖沼、池、河川、干潟などに生息する。淡水域に多い。越冬の終盤である2月末～3月につがいを形成し、繁殖地へ渡る。繁殖期には、河川や湿地の周辺の草地などに生息する。食性は植物食で、河川や湖沼などの水面から届く範囲の藻や水草などを食べる。夜間に採食することが多い。
マガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		体長50-65 cm。翼開長75-100 cm。繁殖期のオスは黄色のくちばし、緑色の頭、白い首輪、灰白色と黒褐色の胴体とあざやかな体色をしている。メスはくちばしが橙と黒で、ほぼ全身が黒褐色の地に黄褐色のふちどりがある羽毛におおわれる。	非繁殖期は、湖沼、河川、海岸に生息する。群れを形成して生活する。越冬中の10月末-12月につがいを形成し、春には雄雌が連れ立って繁殖地へ渡る。繁殖期は湖沼、池、湿地の周辺の草地などに生息する。食性は植物食が主の雑食。水草の葉や茎、植物の種子、貝などを食べる。水面を泳ぐのは上手だがもぐれず、水中に首を突っ込んだり逆立ちしたりしてえさをとる様子がよく見られる。
カルガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		全長53-63センチメートル。翼開長83-91センチメートル。全身の羽衣は黒褐色。	湖沼、河川などに生息し、冬季になると海洋にも生息する。渡りは行わないが、北部個体群は冬季になると南下する。食性は植物食傾向の強い雑食で、種子、水生植物、昆虫などを食べる。水面でも陸上でも採食を行う。
オカヨシガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		全長46-58センチメートル。翼開張84-95センチメートル。体重0.5-1.1キログラム。	湖沼、湿原、三角州などに生息する。食性は主に植物食で、種子、茎、葉、根、水生植物、昆虫、魚類、両生類などを食べる。主に小規模な集団で水面に頭をつけて泳ぎながら採食を行う。
ハシビロガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		全長43-56 cm。翼長オス22.5-24.5 cm、メス22-22.5 cm。次列風切の光沢（翼鏡）は緑色。嘴は幅広く、和名の由来になっている。	河川、湖沼、河口、干潟、海岸などに生息する。食性は植物食傾向の強い雑食で、種子、プランクトン、昆虫、軟体動物、魚類などを食べる[3]。属内では動物食を食べる比率が30%以上に達することもあり、動物食傾向が強い。水面に嘴をつけて水ごと食物を吸い込み、嘴で食物だけを濾し取り水だけを吐き出して採食を行う

ヒドリガモ	カモ目 カモ科 マガモ属		体長約49cm。雄成鳥は額から頭頂がクリーム色で、顔から頸が茶褐色、胸は薄い茶色である。体の上面は灰色で黒い細かい斑が密にある。下尾筒は黒い。雌は全体に褐色。	越冬時は、湖沼、河川、河口、海岸などに生息する。繁殖期はツンドラ地帯や針葉樹林にある湿地などに生息する。食性は植物食。水面に浮かぶ植物性の葉や茎・根・種等を採食する。また、岸や中洲に上がって陸上の植物も食べる。海草、海藻も好んで食べるので、他の淡水型カモ類と比べると、海岸付近で観察されることも多い。昼間は群れで休息し、夕方から明け方にかけて餌場に向かい採餌することが多い。
オオハクチョウ	カモ目 カモ科 ハクチョウ属		全長140-165センチメートル。翼開張218-243センチメートル。全身の羽衣が白いが、個体によっては鉄分の多い湖沼で水中の水草などを採食する際に頭部や首が錆色や黄褐色を帯びることがある	長距離を飛翔する鳥としては最大級で、身体が重いため、離陸時は助走を必要とする。鳴き声は大きく、「コォー」と鳴く。シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖し、日本には越冬のため千島列島を経由し渡来する。食性は草食性が強く、水中や水面の水草を採餌したり、陸上で落ち穂や青草を食べる。
キジバト	ハト目 ハト科 キジバト属		全長約33cm。体色は雌雄同色で茶褐色から紫灰色。翼に、黒と赤褐色の鱗状の模様があるのが特徴。また頚部側面に青と白の横縞模様がある。和名の由来はキジの雌に体色が似ていることが由来とされる。	平地から山地の明るい森林に生息するが、都市部でも普通に見られる。樹上に小枝等を組み合わせた皿状の巣を作るが、古巣を利用することも多く、人工建築物に営巣することもある。雄のさえずり声はかなり特徴的である。「デデッポッポー」と表現される。食性は雑食で主に果実や種子を食べるが昆虫類、貝類、ミミズ等も食べる。
ヒヨドリ	スズメ目 ヒヨドリ科 ヒヨドリ属		全長は約27.5 cm。翼開長は約40 cm。尾は長めで、ムクドリやツグミより体型はほっそりしている。くちばしは黒くて先がとがる。雌雄同色。頭部から胴体は灰色の羽毛に覆われるが、頬に褐色の部分があり、よく目立つ。また、頭頂部の羽毛は周囲よりやや長く、冠羽となっている。	里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。ツグミやムクドリよりも体を直立させてとまり、おもに樹上で活動するが、地上に降りることもある。鳴き声は「ヒーヨ! ヒーヨ!」などと甲高く聞こえ、和名はこの鳴き声に由来するという説がある。果実や花の蜜を食べる。繁殖期は果実に加え昆虫類も多く捕食する。非繁殖期は果実（センダンやイイギリ、カキ、ヘクソカズラなど）がほとんどである。ツバキなどの花の蜜を好む。
カシラダカ	スズメ目 ホオジロ科 ホオジロ属		体長が約15 cm、翼開長が約24 cm[3]。後頭部に短い冠羽がある。雄の夏羽は、頭部が黒く目の上から白い側頭線がある。体の上面は茶色で黒い縦斑がある。体の下面は白色である。雄の冬羽と雌は、頭部と体の上面に淡褐色になる。外観はホオジロのメスに似ている。	平地から山地の明るい林や林縁、草地、農耕地、アシ原に生息する。繁殖期はつがいで生活するが、それ以外は数羽から100羽程の群れを作って過ごす。越冬時は地上を跳ね歩きながら時々冠羽を立てて、草木の種子を採食している。地鳴きは「チッ、チッ」。越冬期の後期では日本でも囀りを聴くことができる。ホオジロやアオジ等より早口で複雑な囀りである。
ホオジロ	スズメ目 ホオジロ科 ホオジロ属		成鳥は全長17 cmほどでスズメとほぼ同じ大きさだが、尾羽が長い分だけ大きくみえる。翼開長が約24 cm。成鳥の顔は喉・頬・眉斑が白く目立ち、「頬白」の和名はここに由来する。一方、頭・過眼線・顎線は褐色で、先の白色部と互い違いの帯模様のように見える。	平地や丘陵地の森林周辺、農耕地、草原、荒地、果樹園、河原など明るく開けた場所に生息する[3]。主に地上や低い樹上で活動し、丈の高い草の茂みに潜むことがあるが、高木の梢にはほとんど行かない。単独または数羽ほどの小さな群れで行動する。食性は雑食性で、繁殖期には昆虫類、秋から冬には植物の種子を食べる。

	アオジ	スズメ目 ホオジロ科 ホオジロ属		全長14-16.5 cm。体重16-25 g。上面は褐色の羽毛で覆われ、黒い縦縞が入る。中央部2枚の尾羽は赤褐色。外側の左右5枚ずつは黒褐色で、最も外側の左右2枚ずつは白い。上嘴は暗褐色、下嘴の色彩は淡褐色。後肢の色彩は淡褐色。	開けた森林や林縁に生息する。非繁殖期には藪地などにも生息する。非繁殖期には群れを形成することもあるが、単独でいることが多い。用心深い性質で、草むらの中などに身を潜める。植物の種子や昆虫類を食べる。地上で採食する。
	ムクドリ	スズメ目 ムクドリ科 ムクドリ属		全長 24cm ほどで、スズメとハトの中間ほど。尾羽を加えるとヒヨドリより一回り小さい程度の大きさ。翼と胸、首は茶褐色で、首から頭にかけてと腰に白い部分が混じり、足と嘴は黄色い。	雑食性で、植物の種子や果物、虫の幼虫などを好んで食べる。地面に降りて歩いて虫などを探すこともあれば、木の枝に留まってカキなどの熟した実をついばむ様子も観察される。椋の木の実を好んで食べるため「椋鳥」と呼ばれるようになったと言われているが、これに限らず幅広く食べている。
	モズ	スズメ目 モズ科 モズ属		全長19-20 cm。眼上部に入る眉状の筋模様（眉斑）、喉や頬は淡褐色。尾羽の色彩は黒褐色。翼の色彩も黒褐色で、雨覆や次列風切、三列風切の外縁（羽縁）は淡褐色。夏季は摩耗により頭頂から後頸が灰色の羽毛で被われる（夏羽）。オスは頭頂から後頸がオレンジ色の羽毛で被われる。	開けた森林や林縁、河畔林、農耕地などに生息する。食性は動物食で、昆虫、節足動物、甲殻類、両生類、小型爬虫類、小型の鳥類、小型哺乳類などを食べる。樹上などの高所から地表の獲物を探して襲いかかり、再び樹上に戻り捕えた獲物を食べる。
	トビ？	タカ目 タカ科 トビ属		タカ科の中では比較的大型であり、全長は60～65cmほどで、カラスより一回り大きい。翼開長は150～160cmほどになる。体色は褐色と白のまだら模様で、眼の周囲が黒褐色になっている。地上や樹上にいるときは尾羽の中央部が三角形に切れ込んでいるが、飛んでいるときは尾羽の先端が真っ直ぐに揃う個体もいる。また、飛んでいる時は翼下面の先端近くに白い模様が見える。	主に上昇気流を利用して輪を描くように滑空し、羽ばたくことは少ない。視力が非常に優れていると言われ、上空を飛翔しながら餌を探し、餌を見つけるとその場所に急降下して捕らえる。餌は、郊外に生息する個体は、主に動物の死骸やカエル、トカゲ、ヘビ、魚などの小動物を捕食する。都市部では生ゴミなども食べ、公園などで弁当の中身をさらうこともあるので、肉食と言うより、雑食性の可能性も高い。
	オオタカ？	タカ目 タカ科		雄の全長約50cm、雌の全長約60cm、翼開長約100～130cm。日本の亜種は白い眉斑と黒い眼帯が特徴である。	平地から山岳地帯にまで生息している。飛翔能力が高く、中小型の鳥類（ハト・カモ等）や小型哺乳類（ネズミ・ウサギ・オコジョ等）を空中あるいは地上で捕らえる里山の猛禽類。食物連鎖の頂点に位置するため、生態系の自然が健全でないと生息できない。飛ぶ速さは水平飛行時で時速80km、急降下時には時速130kmにも達する。
田んぼ周辺	ツグミ	スズメ目 ツグミ科 ツグミ属		全長24 cm。翼開長39 cm。色彩の個体変異が大きい。嘴の色彩は黒く、下嘴基部は黄色。後肢の色彩はピンクがかった褐色。	平地から山地にかけての森林、草原、農耕地などに生息する。越冬地ではまず山地の森林に群れて生息し、その後に平地へ移動し分散する。食性は雑食で、昆虫、果実などを食べる[7]。農耕地や河原などの開けた地表で採食を行う[6]。

ハシブトガラス	スズメ目 カラス科		全長56cm、翼開長100cm、体重550-750gほどで、全身が光沢のある黒色をしており、雌雄同色。ハシボソガラスに似るがやや大きく、嘴が太く上嘴が曲がっているところと、額（嘴の上）が出っ張っているところで判別できる。	元来は森林に住むカラスであり、現在も山間部など森林地帯に広く分布しているが、近年日本では都市部において急速に分布を拡げた。食性は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べる。特に脂質を好み、石鹸や和蝋燭を食べることもある。また、小鳥やネズミなどの生きた小動物を捕食することもある。
メジロ	スズメ目 メジロ科 メジロ属		全長約12 cmで、スズメよりも小さい。翼開長は約18 cm。緑がかった背と暗褐色の羽を持ち、雌雄同色。目の周りの白い輪が特徴であり、名前の由来ともなっている。	食性は雑食だが、花の蜜や果汁を好み、育雛期には虫なども捕食する。花の蜜を大変好むため花期に合わせて行動し、春には好物の花の蜜を求めて南から北へと移動するものもいる。特に早春は梅の花に群がる様子がよく観察され、「チー、チー」という地鳴きで鳴き交わす様子がよく観察される。花の蜜を好む。
カワセミ	ブッポウソウ目 カワセミ科 カワセミ属		全長は17 cmほどで 、スズメよりも大きいが、長いくちばしのため体はスズメほどの大きさ。日本のカワセミ科のなかでは最小種となる。翼開長は約25 cm。体重19-40g。くちばしが長くて、頭が大きく、頸、尾、足は短い。オスのくちばしは黒いが、メスは下のくちばしが赤いのでオスと区別できる。また、若干メスよりオスの方が色鮮やかである	海岸や川、湖、池などの水辺に生息し、公園の池など都市部にもあらわれる。古くは町中でも普通に見られた鳥だったが、高度経済成長期には多くの川が汚れたために、都心や町中では見られなくなった。近年、水質改善が進んだ川では、東京都心部でも再び見られるようになってきている。採餌するときは水辺の石や枝の上から水中に飛び込んで、魚類や水生昆虫をくちばしでとらえる。エビやカエルなども捕食する。
キジ	キジ目 キジ科 キジ属		全長オスが81 cmほど、メスが58 cmほど。翼開長は77 cmほど。オスは翼と尾羽を除く体色が全体的に美しい緑色をしており、頭部の羽毛は青緑色で、目の周りに赤い肉腫がある。背に褐色の斑がある濃い茶色の部分があり、翼と尾羽は茶褐色。メスは全体的に茶褐色で、ヤマドリのメスに似ているが、ヤマドリメスより白っぽい色をしており、尾羽は長い。	山地から平地の林、農耕地、河川敷などの明るい草地に生息している。地上を歩き、主に草の種子、芽、葉などの植物性のものを食べるが、昆虫やクモなども食べる。
コサギ	サギ類		全長60cm。チュウサギよりもさらに小さいので、この名で呼ばれる。全身の羽毛が白色で、いわゆる白鷺と呼ばれる鳥の一種。	水田や川辺、海岸などで首を縮めて立っている姿がよく見られる。魚類、カエル、ザリガニなどを捕食する。獲物を捕らえる時は足でつつくようなしぐさをして、物かげから獲物を追い出してから捕らえることもある。
スズメ	スズメ目 スズメ科 スズメ属		全長は約14-15cmで、体重は18-27g。ホオジロより小さく、シジュウカラぐらいの大きさ。日本では鳥の大きさ等を比較する場合の基準となる「ものさし鳥」と呼ばれる基本種となる（他に ムクドリ、キジバト、ハシブトガラスなど）。	食性は雑食性で、イネ科を中心とした植物の種子や虫を食べる。また、都市部に生息するスズメはサクラの花の蜜、パン屑・菓子屑や生ゴミまで、何でも食料にする。このような雑食性が、都市部での繁殖を可能にした理由の1つと考えられている。繁殖期には子育てのために虫を好んで捕獲する。夏から秋にかけては稲に対する食害も起こす。

ハクセキレイ	スズメ目 セキレイ科 セキレイ属		体長21 cm ほどで、ムクドリよりやや小さめで細身。他のタイリクハクセキレイ亜種より大型になる。頭から肩、背にかけてが黒色または灰色、腹部は白色だが胸部が黒くなるのが特徴的である。顔は白く、黒い過眼線が入る。セグロセキレイと類似するが、本種は眼下部が白いことで判別できる。	主に水辺に棲むが、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでもよく観察される。河川の下流域など比較的低地を好む傾向があり、セグロセキレイやキセキレイとは、夏場は概ね棲み分けている。食性は雑食で、一旦高いところに留まって採食に適した場所を探し、水辺や畑などに降りて歩きながら水中や岩陰、土中などに潜む昆虫類やクモ、ミミズなどを主に捕えて食べる。
キジバト	ハト目 ハト科 キジバト属		全長約33cm。体色は雌雄同色で茶褐色から紫灰色。翼に、黒と赤褐色の鱗状の模様があるのが特徴。また頚部側面に青と白の横縞模様がある。和名の由来はキジの雌に体色が似ていることが由来とされる。	平地から山地の明るい森林に生息するが、都市部でも普通に見られる。樹上に小枝等を組み合わせた皿状の巣を作るが、古巣を利用することも多く、人工建築物に営巣することもある。雄のさえずり声はかなり特徴的である。「デデッポッポー」と表現される。食性は雑食で主に果実や種子を食べるが昆虫類、貝類、ミミズ等も食べる。
ヒバリ	スズメ目 ヒバリ科 ヒバリ属		全長が17 cm。翼開長が32 cm。後頭の羽毛は伸長（冠羽）する。オスは頭部の冠羽をよく立てるが、メスはオスほどは立てない。上面の羽衣は褐色で、羽軸に黒褐色の斑紋（軸斑）が入る。	草原や河原、農耕地などに生息する。種小名arvensisは「野原の、農耕地の」の意。食性は植物食傾向の強い雑食で、主に種子を食べるが昆虫、クモなどを食べる。地表を徘徊しながら採食を行う。
ヒヨドリ	スズメ目 ヒヨドリ科 ヒヨドリ属		全長は約27.5 cm。翼開長は約40 cm。尾は長めで、ムクドリやツグミより体型はほっそりしている。くちばしは黒くて先がとがる。雌雄同色。頭部から胴体は灰色の羽毛に覆われるが、頬に褐色の部分があり、よく目立つ。また、頭頂部の羽毛は周囲よりやや長く、冠羽となっている。	里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。ツグミやムクドリよりも体を直立させてとまり、おもに樹上で活動するが、地上に降りることもある。鳴き声は「ヒーヨ! ヒーヨ!」などと甲高く聞こえ、和名はこの鳴き声に由来するという説がある。果実や花の蜜を食べる。繁殖期は果実に加え昆虫類も多く捕食する。非繁殖期は果実（センダンやイイギリ、カキ、ヘクソカズラなど）がほとんどである。ツバキなどの花の蜜を好む。
ホオジロ	スズメ目 ホオジロ科 ホオジロ属		成鳥は全長17 cmほどでスズメとほぼ同じ大きさだが、尾羽が長い分だけ大きくみえる。翼開長が約24 cm。成鳥の顔は喉・頬・眉斑が白く目立ち、「頬白」の和名はここに由来する。一方、頭・過眼線・顎線は褐色で、先の白色部と互い違いの帯模様のように見える。	平地や丘陵地の森林周辺、農耕地、草原、荒地、果樹園、河原など明るく開けた場所に生息する[3]。主に地上や低い樹上で活動し、丈の高い草の茂みに潜むことがあるが、高木の梢にはほとんど行かない。単独または数羽ほどの小さな群れで行動する。食性は雑食性で、繁殖期には昆虫類、秋から冬には植物の種子を食べる。
ムクドリ	スズメ目 ムクドリ科 ムクドリ属		全長 24cm ほどで、スズメとハトの中間ほど。尾羽を加えるとヒヨドリより一回り小さい程度の大きさ。翼と胸、首は茶褐色で、首から頭にかけてと腰に白い部分が混じり、足と嘴は黄色い。	雑食性で、植物の種子や果物、虫の幼虫などを好んで食べる。地面に降りて歩いて虫などを探すこともあれば、木の枝に留まってカキなどの熟した実をついばむ様子も観察される。椋の木の実を好んで食べるため「椋鳥」と呼ばれるようになったと言われているが、これに限らず幅広く食べている。

	モズ	スズメ目 モズ科 モズ属		全長19-20 cm。眼上部に入る眉状の筋模様（眉斑）、喉や頬は淡褐色。尾羽の色彩は黒褐色。翼の色彩も黒褐色で、雨覆や次列風切、三列風切の外縁（羽縁）は淡褐色。夏季は摩耗により頭頂から後頸が灰色の羽毛で被われる（夏羽）。オスは頭頂から後頸がオレンジ色の羽毛で被われる。	開けた森林や林縁、河畔林、農耕地などに生息する。食性は動物食で、昆虫、節足動物、甲殻類、両生類、小型爬虫類、小型の鳥類、小型哺乳類などを食べる。樹上などの高所から地表の獲物を探して襲いかかり、再び樹上に戻り捕えた獲物を食べる。
雑木林	ハシブトガラス	スズメ目 カラス科		全長56cm、翼開長100cm、体重550-750gほどで、全身が光沢のある黒色をしており、雌雄同色。ハシボソガラスに似るがやや大きく、嘴が太く上嘴が曲がっているところと、額（嘴の上）が出っ張っているところで判別できる。	元来は森林に住むカラスであり、現在も山間部など森林地帯に広く分布しているが、近年日本では都市部において急速に分布を拡げた。食性は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べる。特に脂質を好み、石鹸や和蝋燭を食べることもある。また、小鳥やネズミなどの生きた小動物を捕食することもある。
	メジロ	スズメ目 メジロ科 メジロ属		全長約12 cmで、スズメよりも小さい。翼開長は約18 cm。緑がかった背と暗褐色の羽を持ち、雌雄同色。目の周りの白い輪が特徴であり、名前の由来ともなっている。	食性は雑食だが、花の蜜や果汁を好み、育雛期には虫なども捕食する。花の蜜を大変好むため花期に合わせて行動し、春には好物の花の蜜を求めて南から北へと移動するものもいる。特に早春は梅の花に群がる様子がよく観察され、「チー、チー」という地鳴きで鳴き交わす様子がよく観察される。花の蜜を好む。
	エナガ	スズメ目 エナガ科 エナガ属		体長12.5-14.5cm。体重5.5-9.5g。左記体長には長い尾羽を含むので、尾羽を含めない身体はスズメと比べるとずいぶん小さい。くちばしと首が短く丸い体に長い尾羽がついた小鳥である。	おもに林に生息するが、木の多い公園や街路樹の上などでもみることができる。繁殖期は群れの中につがいで小さななわばりを持つ。非繁殖期も小さな群れをつくるが、シジュウカラ、メジロ、コゲラなどの違う種の小鳥と群れをつくることもある。木の上で小さな昆虫類やクモを食べ、特にアブラムシを好む。また、草の種子なども食べる。
	シジュウカラ	スズメ目 シジュウカラ科 シジュウカラ属		全長は約14.5cmで、スズメぐらいの大きさ。翼開長は約22 cm]。体重は11-20g。上面は青味がかった灰色や黒褐色、下面は淡褐色の羽毛で覆われる。頭頂は黒い羽毛で覆われ、頬および後頸には白い斑紋が入るが、喉から胸部にかけて黒い斑紋に分断され胸部の明色部とは繋がらない。喉から下尾筒（尾羽基部の下面）にかけて黒い縦線が入る。	市街地の公園や庭などを含む平地から山地の林、湿原などに生息する。通常は渡りを行わないが、寒冷地に分布する個体や食物が少ない時には渡りを行うこともある。和名は鳴き声（地鳴き）に由来する。さえずりは甲高いよく通る声で「ツィピーツィピーツィピー」などと繰り返す。食性は雑食で、果実、種子、昆虫やクモなどを食べる。地表でも樹上でも採食を行う。
	アカゲラ	キツツキ目 キツツキ科 アカゲラ属		全長23.5cm。翼開長38-44cm、体重66-98g。中形のキツツキ類であるが、種小名 major は「大きい」の意で、同時期に記載されたコアカゲラやヒメアカゲラよりも大型であることに由来し、英名 great と同義。黒、白、赤の3色からなる。背は黒く、肩羽先端が白くて、逆「八」の字状に見える。腹部や尾羽基部下面（下尾筒）は赤い羽毛で覆われる。	亜高山帯まで（寒冷地では低地に生息する）の落葉広葉樹林や針葉樹林、混交林などに生息する。単独もしくはペアで生活する。高緯度に分布する個体群は冬季になると不規則に南下することはあるが、基本的に渡りをしない。食性は雑食で、主に昆虫、クモ、多足類を食べるが果実、種子なども食べる。主に樹幹で採食を行う。

コゲラ	キツツキ目 キツツキ科 アカゲラ属		全長15 cmで、スズメと同じくらいの大きさ。翼開長は約27 cm。体重18-26 g。日本に生息するキツツキとしては最も小さい。オスよりメスがやや大きい。灰褐色と白のまだら模様の羽色をしている。	天然林から雑木林や都市公園内の樹木など、木立のある場所ならば普通に観察される。本来は平地から山地の林に生息する鳥であるが、近年は都市の近郊にも定着しており、市街地に近い街路樹や人家の庭木、公園の樹木などでもよく見られる。食性は雑食だが、主に昆虫などの節足動物を捕食し、木の実を食べることもある。
ジョウビタキ	スズメ目 ツグミ科 （ヒタキ科）		体長は13.5-15.5 cm、体重13-20 g。スズメよりわずかに小さい。オスは頭上が白く、目の周りが黒いのが特徴である。メスは頭が淡褐色でオスとは簡単に見分けられる。胸から腹、尾にかけてはオスメスとも橙色をしている。	平地からの低山の明るく開けた林の中に生息する。冬の日本では人里や都市部の公園などでもよく見られ、身近な冬鳥の一つである。昆虫類やクモ類などを捕食するが、冬にはピラカンサ[3]などの木の実もよく食べ、ヒサカキなど実をつけた木によく止まっている。
キジバト	ハト目 ハト科 キジバト属		全長約33cm。体色は雌雄同色で茶褐色から紫灰色。翼に、黒と赤褐色の鱗状の模様があるのが特徴。また頚部側面に青と白の横縞模様がある。和名の由来はキジの雌に体色が似ていることが由来とされる。	平地から山地の明るい森林に生息するが、都市部でも普通に見られる。樹上に小枝等を組み合わせた皿状の巣を作るが、古巣を利用することも多く、人工建築物に営巣することもある。雄のさえずり声はかなり特徴的である。「デデッポッポー」と表現される。食性は雑食で主に果実や種子を食べるが昆虫類、貝類、ミミズ等も食べる。
ヒヨドリ	スズメ目 ヒヨドリ科 ヒヨドリ属		全長は約27.5 cm。翼開長は約40 cm。尾は長めで、ムクドリやツグミより体型はほっそりしている。くちばしは黒くて先がとがる。雌雄同色。頭部から胴体は灰色の羽毛に覆われるが、頬に褐色の部分があり、よく目立つ。また、頭頂部の羽毛は周囲よりやや長く、冠羽となっている。	里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。ツグミやムクドリよりも体を直立させてとまり、おもに樹上で活動するが、地上に降りることもある。鳴き声は「ヒーヨ! ヒーヨ!」などと甲高く聞こえ、和名はこの鳴き声に由来するという説がある。果実や花の蜜を食べる。繁殖期は果実に加え昆虫類も多く捕食する。非繁殖期は果実（センダンやイイギリ、カキ、ヘクソカズラなど）がほとんどである。ツバキなどの花の蜜を好む。
チョウゲンボウ	タカ目 ハヤブサ科		ハトくらいの大きさで全長 30-35 cm。翼を広げると 70-80 cm になる。体重は雄が 150 g、雌が 190 g 程度である。雌の方が大型である。羽毛は赤褐色で黒斑がある。雄の頭と尾は青灰色。雌は褐色で翼の先が尖っている。	農耕地、原野、川原、干拓地、丘陵地帯、山林など低地、低山帯から高山帯までの広い範囲に生息する。単独かつがいで生活する。 齧歯類や小型の鳥類、昆虫、ミミズ、カエルなどを捕食する。素早く羽ばたいて、体を斜めにしながらホバリングを行った後に急降下して地上で獲物を捕らえることが多いのが特徴。ハヤブサ類だが、飛翔速度は速くない。